



株式会社 ころぎ社

Type: 202206 -

コンサートグロッケン

取扱説明書 

Glockenspiel User's Manual

対象機種

UG01



Photo:UG01

KOROGI
marimbas & xylophones

正しく安全にご使用頂くために まずお読みください

for safety .


この度は弊社商品をお買い上げ戴きまして誠に有難うございます。

本商品の特性を正しくご理解の上、末永くご愛用賜りますよう心よりお願い申し上げます。

開梱から組み立て、分解まで当説明書をご参考にして下さい。

尚、ご不明の点につきましてはお気軽にお問い合わせください。

(Tel: 本社 0778-34-2333 or ネオリア 03-5912-5880)

 株式会社 こおろぎ社



安全へのこころがけ

① 開梱上のご注意

- 梱包を受け取る時もしくは開く前に梱包が傷んでないかどうかをご確認ください。
内部に達するような損傷がある場合は配達者・運送会社もしくは弊社まで速やかにご連絡ください。
念のためその部分の写真を撮って頂くことをお願いします。
- 組み立て、分解には十分なスペースが必要です。開梱はこおろぎマークが上を向くようにして行います。
カッター等で浅く開梱部のクラフトテープを切ってください。
ダンボールの端で手を切ることがありますのでご注意ください。
梱包のまま全てのパーツを箱から取り出してください。
梱包の一部を開いてパーツ (P3/一覧) が揃っていることをご確認ください。 以下各ページの説明文をお読み下さい。

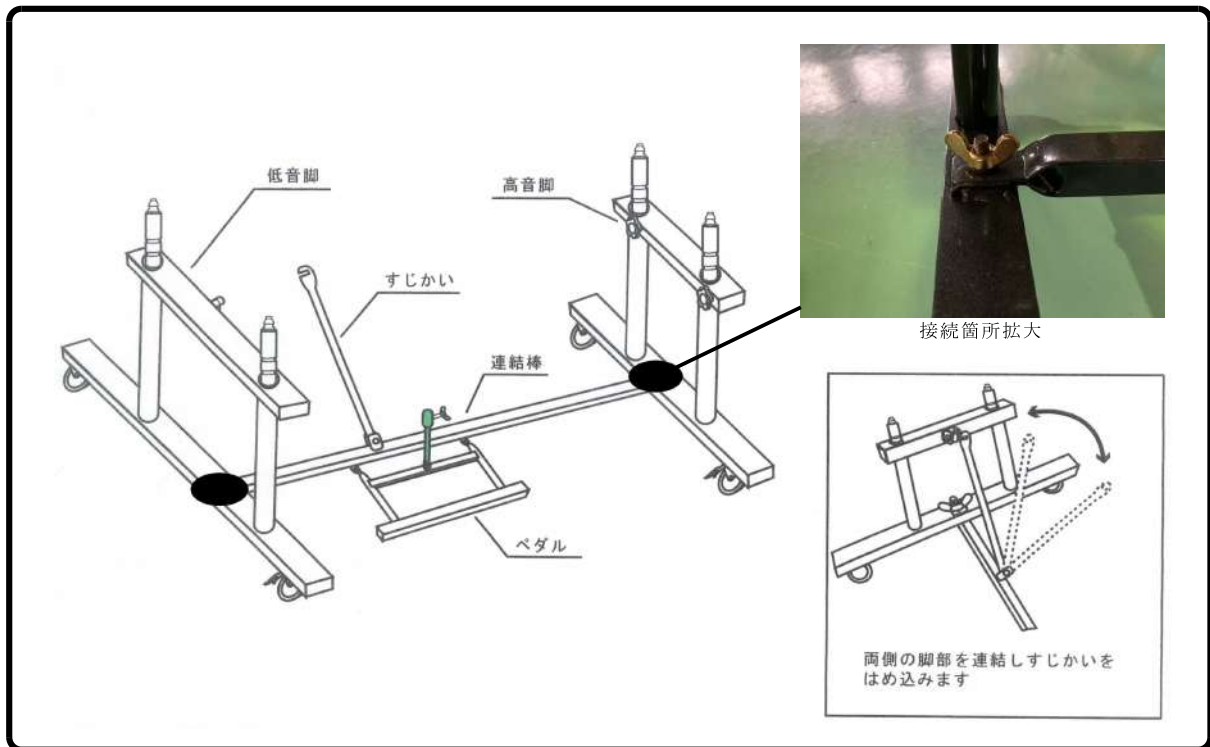
② 管理上のご注意

- 段差のあるところや階段の近くには出来るだけ置かない下さい。設置後は必ずキャスターロックをしてください。
- 移動する場合、同じフロア上でもゆっくり動かすことが基本です。
段差やスロープがある場合は必ず複数の人で動かしてください。
共鳴管等が床や段差にぶつかると、キャスターや本体に予想外の力が加わり、転倒や破損の原因になります。
また、床と共鳴管の隙間に足を挟まないよう十分ご注意ください。
- 本体に乗らないこと。
音板の上に物を載せないこと (桁下がりの原因になります)。
- 火気・熱風に近づけるのは危険です。
- 音板が濡れた時には速やかに拭き取り、乾かして下さい (音程の悪化防止)。
- 音板に直射日光を当てない下さい (ひび割れ防止)。
- 湿度は40～55%の範囲内で管理して頂くのが理想です。
湿度の高いところには長時間置かない様にして下さい。
音板は温度の変化には順応しますが、良く響くのは、おおよそ15℃～28℃の範囲です。
- 木の音板は1～2年かけて育てる (硬化・純化) のが最良です。
その間は表面を傷つけない様、適度な硬さのマレットで、満遍なく叩くことが望まれます。
- マレットは予想以上に、打撃が強く危険です。撥以外の用途には絶対に使用しないで下さい。

1 脚部の組立

Assembly Method of Concert Glockenspiel

1 両側の脚部とペダルを接続

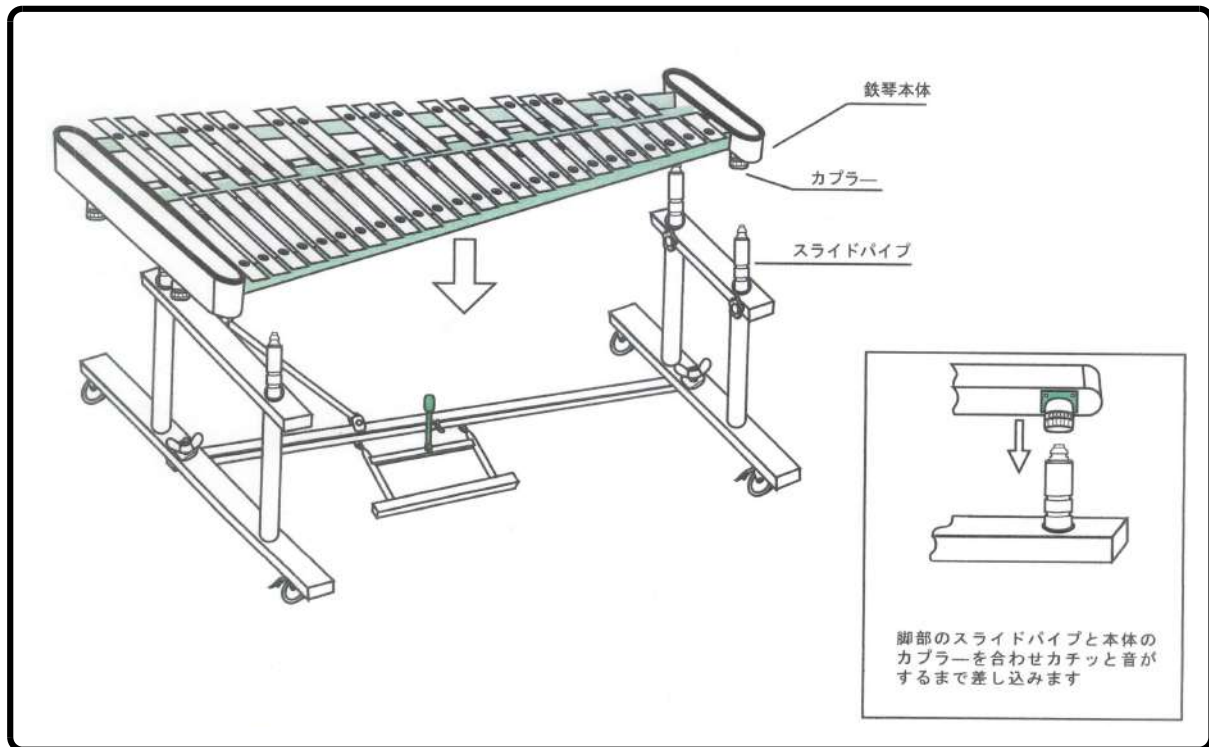


- 両側の脚を立てた状態から、連結棒を接続します。
- 両側の脚の突起に、連結棒の切り欠いた部分を差し込んでください。
- 差し込んだ後、蝶ナットで動かないように固く締めます。
- 両側とも締めたら、低音側のフレームの上部突起に筋交いをはめ込み、こちら蝶ナットで固定します。

2 鉄琴本体の取り付け

Assembly Method of Concert Glockenspiel

2 組み立てた脚部に、鉄琴本体を載せる

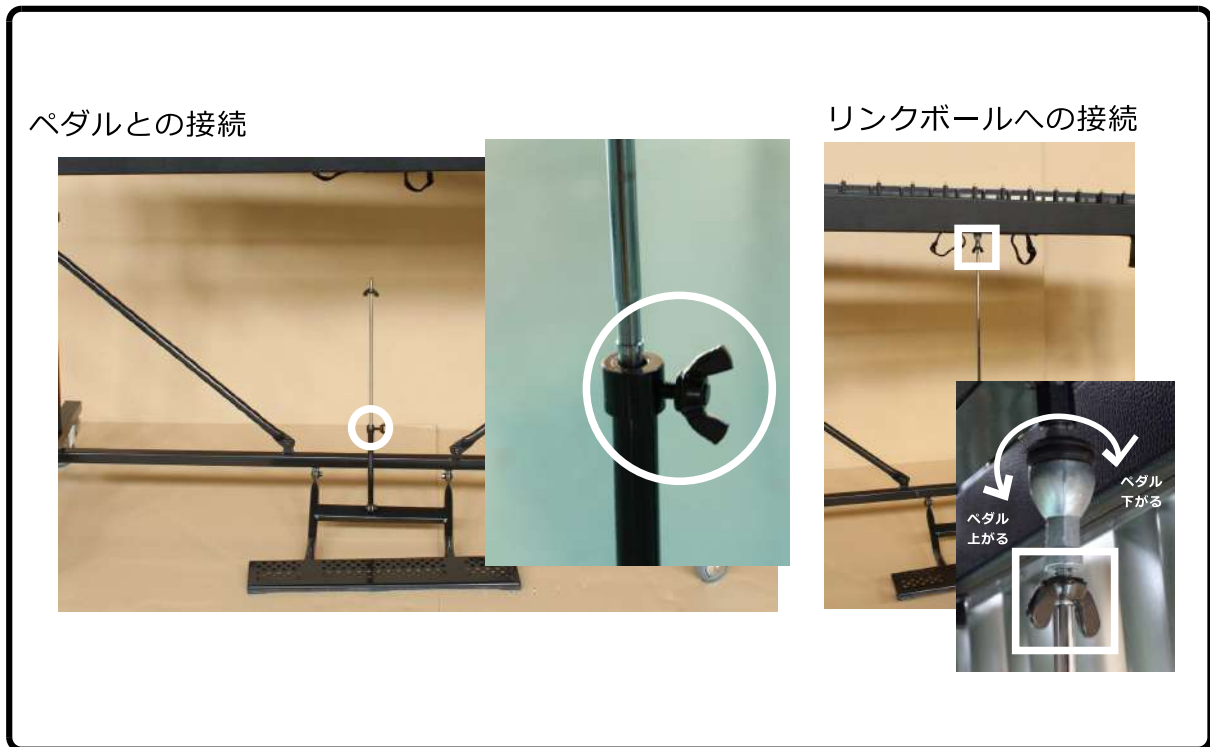


- 脚部を組み立てたら鉄琴部を載せます。重量がありますので、必ず2人以上で作業してください。
- 脚部のスライドパイプと鉄琴部のカプラーの位置をしっかりと合わせて、カチッと音が鳴るまではめ込みます。

4 ロッドの接続

Assembly Method of Concert Glockenspiel

4 ロッドをペダルにはめ込み、リンクボールと接続

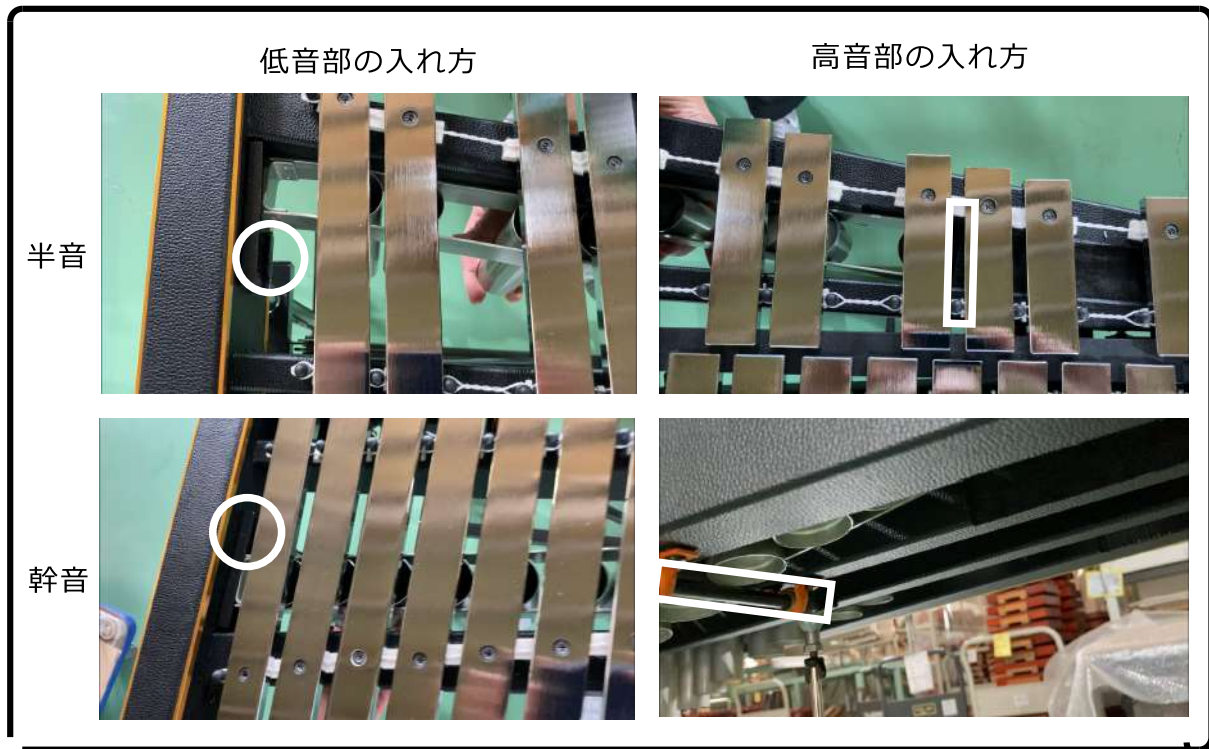


- ロッドをペダルに差し込み、その状態のままロッドの上端（蝶ナットのある側）をリンクボールにねじを回しながらはめ込み、半分ほど締めます。
- リンクボールとロッドの切込みの位置で、ペダルの高さを合わせていきます。ロッドの最も切込みの深い場所に合わせて、ペダルのロッド受け部（○印）の蝶ネジを締めます。ロッドを上下させながら確実に深い切込み位置で締めてください。
- 蝶ネジを締めたら、リンクボールを左右に回して微調整を行います。ペダルの張りを強めたい（ペダル位置を上げたい）場合は、リンクボールを左に、逆に緩めたい場合は、右に回します。ペダルの踏み込みを確かめながら行ってください。
- 位置が決まったら、ペダルを軽く押して外れないことを確認してください。最後に□印のロッドについての蝶ナットを締めて完全に固定します。

3 共鳴管の装着

Assembly Method of Concert Glockenspiel

3 幹音側は、ダンパー解放機構の上を通すように装着



- 幹音側の共鳴管を水平に保ったまま、上から差し込み、受けゴムに嵌め込みます。
 - 半音部の共鳴管は、上からではダンパーに引っかかるため、下から差し込みます。写真のように共鳴管を斜めにして、高音部の受けゴムに引っ掛けます。角度をつけないと、□で示したダンパー部にぶつかる場合があります。
 - 高音部を引っ掛けたまま、共鳴管の低音部を持ち上げ、フレーム低音側の受けゴムの間（○印）を一度下から上に通して、上から受けゴムのスリットに嵌め込みます。
- ※ 共鳴管を差し込む際に、モーター部や鉄脚部に当たってダメージが発生する可能性がありますので、2人以上での作業をお勧めいたします。

5 組立後の高さ調整について



- UG01には、5段階のねじ止め式高さ調節機構が備わっています。
脚が立ち上がった状態で高さ調整を行う場合は、必ず2人以上で行ってください。
- 最初に、③のダンパーロッド受け部のネジを緩めてください。ダンパーロッドを固定したままで高さの調節を行おうとすると、ロッドが曲がったり折れたりする恐れがあります。
- ②のノブねじを左右両方緩め、フレームの上部を持ち上げながら高さを変更します。
ノブねじを緩めると急に大きな重量がかかりますので、落下等にご注意ください。
目的とする高さまで銀色のスライドパイプを上下させ、溝に合わせてノブねじを締めます。
- 写真は高音側ですが、低音側も同じように高さ調整を行います。
なお、低音側と高音側の高さは必ず同じ位置になるようにしてください。